

○首を垂れる稲穂	11:22	<p>N 米どころ、愛知。 明治用水と呼ばれる、 農業用水の完成と共に開拓された 水田地帯があります。</p>
○あいちのかおり 沓名さん コーナーカット	11:34	<p>N こちらの沓名政勝さんが 作っているのは、あいちのかおり というお米。</p>
○沓名さん話	11:41	<p>品質も良いし、食べてみても「うちの「コシヒカリと比べたら、断然あいちのかおりの方が良い。全国的には知られてないんでね。本当は良い米なもんで全国にもっと出ていたら良いと思うんだけど。」</p>
○あいちのかおり稲穂	11:56	<p>N 愛知県のほぼ中央に位置する 安城市。(あんじょうし) かつては、米作(べいさく)を 中心とした養鶏や養蚕(よつさん)、 果樹栽培などを行う、 多角形農業が盛んだった場所。</p>
○収穫する中 ロング 出	12:21	<p>N 農業先進国デンマークになぞらえ、 日本のデンマークと呼ばれました。 N 香るように芳醇な味という、 その美味しさから名付けられた あいちのかおり。</p>

<p>○トラックに積載された米のアップ</p> <p>○トラクターで畑作業を行う沓名さん</p>	<p>12:29</p> <p>12:35</p>	<p>N 大粒で程よい甘さが特徴のお米なんだそう。</p> <p>N その特徴は、大きさや味だけではありません。</p> <p>沓名さん、この日はトラクターを使い作業をしていました。</p>
<p>○トラクターアップ</p> <p>○線の中にタネが</p> <p>○タネを入れる沓名さん</p> <p>○あいちのかおりのタネ</p>	<p>12:46</p> <p>12:55</p>	<p>N 畑を耕しているのかと思いきや、そこにはピンク色をした種の姿が。</p> <p>N 実はこの作業、じか撒きと呼ばれお米のタネを、じかに乾いた田んぼに撒いて、発芽させるもの。</p>
<p>○沓名さんインタビュー</p>	<p>13:06</p>	<p>田植えだと中干しって言って、だいたい20本くらいに分蘖した時に、中干しっていう田んぼを干す作業があるんだけど、これはもう硬いままだもんで、全然大丈夫でそのままですね。作業管理は楽です」</p>
<p>○丁度良い頃合になった稲</p>	<p>13:26</p>	<p>N 種まきから一ヶ月が過ぎ、田植えするくらいの稲になった頃合いで、田んぼの脇に設置された用水の栓を開け、水貼りをします。</p>
<p>○ムギの収穫作業</p>	<p>13:51</p>	<p>N この安城市周辺の農業は、農地面積も広く、米以外の作物も同時に育成する多角形農業。そのため、稲作の作業負担の軽減は他の作物の作業を行う時間を</p>

<p>○沓名さんインタビュー</p>	<p>14:13</p>	<p>確保する重要な要素になります。</p> <p>N さらに、作業の効率化は、 今後の後継者問題の解決のためにも 必要不可欠なものと言います。</p>
<p>○沓名さんインタビュー</p>	<p>14:24</p>	<p>まあ、この辺に関しては、後継者がちゃんと揃ってるし、今から未来も出てきてくれると思うもんで、その子たちのためにもだし。。。自分も子供は大きくなっちゃったけど、自分のところの子供が小学生の時は、自分たちキャベツも作っていて、学校給食とかも出してるので、コメも当然あいちのかおりが入ってるんだけど、やっぱり自分のところのお父さんが作った米がというふうなこともあるもんでねーそういうのは作りがいがあるって 「 いっかね。」</p>
<p>○青空 ○水を貼った田んぼの風景</p>	<p>14:58</p>	<p>N 水張りを開始してから、 およそ8時間。 見慣れた田んぼの風景。</p>
<p>○稲 ○田んぼロング</p>	<p>15:07</p>	<p>N そこに、 有名な米どころに負けない米を作りたい、 そんな想いが、 風に乗って吹き抜けています。</p>
<p>○沓名さんインタビュー</p>	<p>15:17</p>	<p>二度食べてほしい。まあそれだけです よ。食べてもらえれば、絶対美味しさ わかると思う。自分もいろんな、東北の</p>

○渥美半島俯瞰ロング	15:36	米とか食べさせてもらうけど、負けてはないと思うもんね、絶対に」 N 愛知県の南端、渥美半島の ほぼ全域に広がる田原市。(たはら) ここには、多くの農業用ハウスが 軒を連ねています。
○農業用ハウスの数々		
○山間の農業用ハウス	15:52	N そして、長きにわたり変わらない 郷土の風景がある場所。
○暗転して明かりの灯る 農業用ハウス	15:59	N その風景がこちら。
○夜景ロング	16:03	N 明かりの灯ったハウスが並ぶ 電照菊作りの風景です。
○電照菊の明かりの様子	16:11	N 都会の夜景とは違う柔らかい 優しい光が夕闇に浮かび上がります。
○電照菊 鈴木さんのコナ ーカット	16:20	N こちらの鈴木平造さんもこの地で 輪菊を作り続ける一人。
○鈴木さんインタビュー	16:27	単純に飾って綺麗っていうのもありま す。緑と白の。まあ黄色でもいいと思うん ですけども。菊類全般に共通すること で、お客さんが長い時間喜んでもらえるとい うのは一番のウリで、丈夫で長持ちなん で人気があると」
○輪菊の収穫をする鈴木 さんロング	16:49	N 田原市は、栽培面積、出荷量ともに 全国一の輪菊の産地。